

令和7年度 学校評価書

松前町立岡田小学校

【評価基準】 A:80%以上達成 B:60%以上達成 C:60%未満

【アンケートの評価規準】◎:80%以上が肯定 ○:60%以上が肯定 △:60%未満が肯定

項目	小項目 (重点目標)	設問 番号	評価指標及び目標値	評定	学校による考察・改善方策	評価資料	評価	アンケート結果				
								肯定		否定		
								1	2	3	4	
よく考え、よく学ぶ子	○生きて働く知識と技能 ○思考力・判断力・表現力 ○主体的・対話的で深い学び	1	児童がめあてをもって主体的に学習に取り組む指導や特別支援教育の視点に立った指導を行い、分かる楽しい授業を心掛けた。 目標値:教職員、児童、保護者の80%以上が肯定(1・2)	A	○設問1では、昨年度から保護者は横ばい、児童・教職員は肯定率がやや上昇した。これまでの授業研究で蓄積してきた内容を生かし、主体的・対話的で深い学びへと学習を展開する努力をしている。児童の12%(昨年度13%)が、学びの楽しさを味わえていないという結果を真摯に受け止め、引き続き個に応じた学びを模索していく。	教職員アンケート	◎	23%	77%	0%	0%	
		2	学力の定着をめざし、思考力・表現力の育成や基礎・基本の理解を図ることに努めた。 目標値:教職員、児童、保護者の80%以上が肯定(1・2)	A	○設問2では、保護者の肯定率が5%減少した。また、22%(昨年度23%)の児童が「分からない」と回答していることを受け止め、更なる授業改善を図りながら、学級担任や専科教員が協力して、個に応じた丁寧な指導・支援をしていく。	教職員アンケート	◎	12%	84%	4%	0%	
		3	家庭と連携し、家庭学習が身に付くように努めた。 目標値:教職員、児童、保護者の80%以上が肯定(1・2)	A	○設問3では、保護者の肯定率が5%、児童が3%減少した。課題の与え方を工夫したり児童が学習に取り組む意識を高めたりするとともに、タブレット端末をうまく活用しながら、引き続き、学校と家庭が連携して見届けを行い、適切な学習習慣の定着をめざしていく。	児童アンケート	◎	41%	37%	17%	5%	
	※は教職員のみへの働き方に関する設問	※	実効性のある業務改善に取り組み、児童一人一人に向き合う時間の確保やワークライフバランスに努めた。	A	○昨年度から肯定率が6%上昇し、業務改善と教職員の意識改革の成果が表れている。今後も、「勤務時間と職務の縮減」と「教職員としてのやりがいの維持」のバランスを取りながら、業務改善の努力を続けていかなければならない。	保護者アンケート	◎	44%	52%	4%	0%	
	思いやりのある子	○認め合い、支え合い、高め合う集団 ○いじめを許さない子どもと教師 ○人権・同和教育、特別支援教育	4・5	家庭・地域と連携して心の込もったあいさつができる児童を育てることに努めた。 目標値:教職員、児童、保護者の80%以上が肯定(1・2)	A	○設問4では、保護者・児童・教職員(以下、三者)ともほぼ横ばいに、設問5では、児童はほぼ横ばいであったが、保護者の肯定率が3%減少している。あいさつについては、運営委員会や6年生有志による呼びかけ、教職員の指導等を積極的に行った。地域の方々へのあいさつをより積極的に行うよう、声をかけていく。また、家庭でも、より一層お声をかけていただきたいと考える。	教職員アンケート	◎	26%	63%	11%	0%
			6	学級・学年などの活動を通して、認め合い、支え合い、高め合う集団づくりを推進した。 目標値:教職員、児童、保護者の80%以上が肯定(1・2)	A	○設問6では、児童の肯定率が3%減少し、設問7では、三者とも横ばいであった。例年同様、全体的に肯定的な回答が多く、個々に様々なトラブルや悩みを乗り越えて学校生活を送っている様子がうかがえる。学年の発達段階に合わせてケースバイケースで指導・支援をしていく。また、引き続き保護者との連携で解決し、子どもたちのよりよい成長につなげていく。今後も、成長途中の子どもたちを温かく広い視野で見守り、支援していただきたい。	児童アンケート(家族)	◎	66%	28%	4%	2%
			7	人権・同和教育、特別支援教育の視点を根底にして、教育活動全体を通じて、豊かな心をもった児童を育てるようにした。 目標値:教職員、児童、保護者の80%以上が肯定(1・2)	A	○設問8では、保護者の肯定率が3%上昇し、昨年同様に多くの保護者が、学校での子どもたちの学びを肯定的に捉えていることが分かる。保護者の学校教育に対する協力的な姿勢が、子どもたちの成長に大きく寄与している。引き続き家庭と学校とが連携していければと思う。	児童アンケート(地域)	◎	73%	20%	5%	2%
			8・9	児童・保護者が相談しやすい体制を整え、いじめ・不登校・非行問題などへの積極的対応を心掛けた。 目標値:教職員、児童、保護者の80%以上が肯定(1・2)	A	○設問9(心配なこと)では、児童の肯定率が4%上昇したが、1クラスにおよそ3、4人が「心配事がある」ことになる。その内容や経緯は様々であるが、教職員一同、一人一人の児童としっかりと向き合い、個に応じた対応に引き続き努めていく。	保護者アンケート(家族)	◎	37%	55%	8%	0%
		学校関係者評価委員の所見	○楽しく分かる授業の肯定率が上昇しているのは楽しみ。 ○楽しく分かる授業の研究、推進を続けていただきたい。 ○子どもたちの学習に対する満足感、肯定感が保護者や教職員のそれと比べて高いので安心。 ○学習内容の理解のところで児童と先生方、保護者の捉え方に差がある。 ○家庭学習については、各家庭で話し合う課題であり、先生方はよくやっている。 ○放課後子ども教室に参加している児童も、時間があれば、まず宿題をすることが身に付いている。 ○人権の町松前町としては、これからぜひ人に優しい教育が必要ではないかと思う。 ○登下校で子どもと会うと気持ちよくあいさつしてくれる。 ○朝、登校の見守りをしているが、あいさつをしない子が増えたように思う。元気な声であいさつのできる子、顔を見てあいさつのできる子もたくさんいる。 ○あいさつの意識が児童と差がある。こんなにはできていない。声も小さく元気がない。 ○登下校のあいさつに気付きにくいお子さんがいる。状況の変化、本人の性格やタイミングもあると思うが、以前はそんなことはなかった。 ○登下校時のあいさつが児童では、せいぜいよく見て30%ぐらいだと思う。知らない人にはということがあるのかな。 ○道で会ってもあいさつはしてくれるが、以前より減ったような気がする。 ○地域の方へのあいさつについては、学校をはじめ、家庭でもあいさつを積極的にするよう、声かけをお願いしたい。 ○見守り隊・地域の方へのあいさつについて、親より子どもの肯定率が高いのは疑問。住民として積極的に声かけをしていきたい。 ○学校が楽しいと思っている子どもさんが多くうれしい。 ○時々子どもたちが遊んでいる声が聞こえ、楽しそうである。 ○友達づくりで、人間関係・思いやりの心が生まれる。 ○自分勝手な子どもが多い。思いやりがあれば暴力やいじめはなくなる。自分がされていやなことは他人にもしない教育をしてもらいたい。 ○相談体制が整っていて安心。 ○10%の児童が「相談していない」ことが気になったが、大方の児童は安定した学校生活を送っているようなので安心。 ○心配事がある児童、相談ができない児童がゼロになることを望む。 ○相談室の存在を知らない保護者さんがたくさんいる。地域でも児童・保護者さんの様子を見守っていききたい。 ○どの項目も保護者の意見をしっかりと聞き、対応してくださっている。日々の地道な活動、対応が力になる。	9	児童・保護者が相談しやすい体制を整え、いじめ・不登校・非行問題などへの積極的対応を心掛けた。 目標値:教職員、児童、保護者の80%以上が肯定(1・2)	A	○設問9(相談体制)では、児童の肯定率が7%、教職員は3%上昇した。安定した学校生活を送っている児童が多いと言えるが、一方で、「相談していない」と回答した児童がまだ10%いる。担任を含めて様々な立場の教職員が、児童との信頼関係を深め、児童が「困ったときにはいつでも相談できる・相談を聞いてくれる」という安心感に包まれるように、更に努力していく。 ○「相談室」に外部委託の相談員がいるので、育児やご家庭での悩み等、何でも気軽に活用いただけるよう引き続き工夫したい。	保護者アンケート(地域)	○	33%	42%	21%
教職員アンケート				◎	29%	71%	0%	0%				
児童アンケート				◎	49%	41%	8%	2%				
保護者アンケート				◎	52%	44%	3%	1%				
教職員アンケート				◎	32%	68%	0%	0%				
児童アンケート				◎	73%	23%	3%	1%				
保護者アンケート				◎	55%	43%	2%	0%				
児童アンケート(楽しさ)				◎	69%	25%	4%	2%				
保護者アンケート(楽しさ)	◎	56%	39%	4%	1%							
児童アンケート(心配ごと)	◎	70%	18%	8%	4%							
教職員アンケート(相談体制)	◎	48%	52%	0%	0%							
児童アンケート(相談体制)	◎	63%	17%	10%	10%							
保護者アンケート(相談体制)	◎	51%	44%	4%	1%							
学校関係者評価委員の所見	○本校では、国語科を中心にして、的確な読み取りや豊かな語彙力を基に、自分の考えを形成する力を育む研究を進めており、今年度は他の教科においても「学びの足あとシート」の活用や学習カードの開発するなど、研究の幅を広げていった。今後も、研究内容を日々の授業に落とし込み、全員の児童にとって「楽しく分かる授業」を目指して取り組んでいきたい。 ○学級担任はもとより、児童の教育に携わる全教職員が、それぞれの立場を生かして、児童の健全育成に関わっていく。加えて、家庭や地域との具体的で実のある連携を充実して、それぞれの役割を自覚しながら一体となって健全育成を引き続き推進していきたい。 ○本校が行っている「I♥岡小プロジェクト(アイ ラブ 岡小プロジェクト)」の中の一つに、「広げようあいさつの輪」を掲げ、毎朝の正門でのあいさつ運動などに取り組んでいる。校内だけでなく、登下校においても、元気で気持ちのよいあいさつをしている児童は多いが、今回「あいさつが減った」とのご意見を多くいただいた。より多くの児童が見守り隊の方々や旗番の保護者の皆様などに進んであいさつできるように言葉がけをするとともに、教職員がその手本となるようにしていきたい。 ○「I♥岡小プロジェクト(アイ ラブ 岡小プロジェクト)」では、「増やそう、違う学年の友達」として縦割り班での毎日の清掃活動や月に1回の遊びをしたり、「友達のキラリ発見」として友達のいい所探しの活動をしたりしており、引き続き思いやりの心を育てる取組を進めていきたい。 ○近年、児童や家庭が抱える問題や悩みも多様化している。相談できずに抱え込んでしまう児童がゼロになることをめざして、引き続き地域や他の相談機関とも連携しながら、きめの細かい対応をしていきたい。	学校 の 対 応	○本校では、国語科を中心にして、的確な読み取りや豊かな語彙力を基に、自分の考えを形成する力を育む研究を進めており、今年度は他の教科においても「学びの足あとシート」の活用や学習カードの開発するなど、研究の幅を広げていった。今後も、研究内容を日々の授業に落とし込み、全員の児童にとって「楽しく分かる授業」を目指して取り組んでいきたい。 ○学級担任はもとより、児童の教育に携わる全教職員が、それぞれの立場を生かして、児童の健全育成に関わっていく。加えて、家庭や地域との具体的で実のある連携を充実して、それぞれの役割を自覚しながら一体となって健全育成を引き続き推進していきたい。 ○本校が行っている「I♥岡小プロジェクト(アイ ラブ 岡小プロジェクト)」の中の一つに、「広げようあいさつの輪」を掲げ、毎朝の正門でのあいさつ運動などに取り組んでいる。校内だけでなく、登下校においても、元気で気持ちのよいあいさつをしている児童は多いが、今回「あいさつが減った」とのご意見を多くいただいた。より多くの児童が見守り隊の方々や旗番の保護者の皆様などに進んであいさつできるように言葉がけをするとともに、教職員がその手本となるようにしていきたい。 ○「I♥岡小プロジェクト(アイ ラブ 岡小プロジェクト)」では、「増やそう、違う学年の友達」として縦割り班での毎日の清掃活動や月に1回の遊びをしたり、「友達のキラリ発見」として友達のいい所探しの活動をしたりしており、引き続き思いやりの心を育てる取組を進めていきたい。 ○近年、児童や家庭が抱える問題や悩みも多様化している。相談できずに抱え込んでしまう児童がゼロになることをめざして、引き続き地域や他の相談機関とも連携しながら、きめの細かい対応をしていきたい。									

項目	小項目 (重点目標)	評価指標及び目標値	評定	学校による考察・改善方策	評価資料	評価	アンケート結果					
							肯定		否定			
							1	2	3	4		
粘り強くやりぬく子	○目標に向かう意志力 ○気持ちのよいあいさつと望ましい生活習慣 ○体力つくりとたくましい体	10 家庭と連携して、「早寝・早起き・朝ごはん運動」、家の手伝い、整頓等の基本的な生活習慣の定着に努めた。 目標値:教職員、児童、保護者の80%以上が肯定(1・2)	A	○設問10「早寝・早起き・朝ごはん」では、児童の結果は横ばい、保護者の肯定率が3%上昇した。近年は、睡眠時間が足らなかつたり効率的な時間の使い方ができなかつたりする児童が一定数見受けられ、望ましい生活習慣が身に付きにくい環境のようである。ゲーム機やスマートフォンを使用して、ゲームや動画視聴、SNSに費やす時間が多くなっているのが最大の原因となっているが、家庭で「ゲーム機やスマートフォンの使い方の約束」を話し合い、約束を守ることで効果を上げている例もたくさん見られる。児童の実態に応じた指導を家庭と連携しながら地道に取り組んでいきたい。	教職員アンケート 児童アンケート 保護者アンケート	◎ ◎ ◎	26% 49% 43%	59% 34% 48%	11% 13% 8%	4% 4% 1%		
		11 望ましい食習慣の形成や自らの健康に関心をもたせ、健康づくりや体力づくりに励むように配慮した。 目標値:教職員、児童、保護者の80%以上が肯定(1・2)	A	○設問11「健康づくり・体力づくり」では、保護者は横ばいであったが、児童の肯定率が4%上昇している。今年度も、外遊びの有効性を指導しつつ、委員会の児童とともに意図的に屋外での群れ遊びをする機会を増やしている。児童の体力と免疫力を高めるために、計画的に指導を積み重ねていきたいと考えている。心も体もたくましい岡田っ子をめざしていきたい。	教職員アンケート 児童アンケート 保護者アンケート	◎ ◎ ○	32% 52% 41%	64% 32% 38%	4% 12% 20%	0% 4% 1%		
		12 家庭や地域と連携し、登下校の安全確保や不審者対策等による安心・安全な学校づくりを推進した。 目標値:教職員、児童、保護者の80%以上が肯定(1・2)	A	○設問12「交通ルールの順守」では、保護者と児童はほぼ横ばいであったが、教職員は7%上昇している。最近では、ヘルメットをかぶらずに自転車に乗っている児童は見なくなったが、登下校における歩き方や帰宅後の自転車の乗り方など、引き続き学校と家庭・地域が連携して、繰り返し巻き返し指導していく必要がある。	教職員アンケート 児童アンケート 保護者アンケート	◎ ◎ ◎	41% 85% 41%	52% 13% 55%	7% 1% 4%	0% 1% 0%		
		13 定期的な点検を行い、施設・設備の安全管理に努めた。 目標値:教職員、保護者の80%以上が肯定(1・2)	A	○設問13「安全な環境づくり」では、保護者・教職員とも横ばいであった。学校では、教職員が毎月、学校内の安全点検を行い、危険箇所の早期発見に努め、優先順位を決めて修繕等を行っている。引き続き注意深く点検していく。また、9月に行われたPTA奉仕作業では、学校園や田周辺の草抜き、校内の会所の土取り、校舎内のトイレ清掃など、児童が学ぶ環境整備に多くの保護者に協力いただいた。	教職員アンケート 保護者アンケート	◎ ◎	28% 43%	65% 54%	7% 3%	0% 0%		
		家庭・地域	家庭・地域との連携 目標値:教職員、保護者の80%以上が肯定(1・2)	14・15 学校の情報発信をするともに保護者や地域住民との連携が図られている。	A	○設問14では、保護者の方々の評価は横ばいであった。保護者や地域の方々に来校いただく中で、教育活動を直接見て感じていただいているが、学年・学校通信、ホームページ等を通して、教職員からの情報発信を引き続き充実していきたい。 ○設問15では、家庭や地域からの声に「迅速に」「誠実に」答えしていくことを前提として、教職員全員で役割分担をしながら取り組んでいる。教職員の手応えとしては、例年と同様に高い自己評価となっているが、個別のことについては十分な対応ができておらず、保護者や地域の方々に迷惑や心配をかけていることもあった。今後もそれらの反省を生かして、しっかりと情報を共有し連携を図っていく中で、信頼関係を引き続き構築していきたい。	教職員アンケート(情報発信) 保護者アンケート(関心) 教職員アンケート(対応)	◎ ◎ ◎	48% 45% 41%	48% 50% 59%	4% 4% 0%	0% 1% 0%
				14・15 学校の情報発信をするともに保護者や地域住民との連携が図られている。	A	○設問14では、保護者の方々の評価は横ばいであった。保護者や地域の方々に来校いただく中で、教育活動を直接見て感じていただいているが、学年・学校通信、ホームページ等を通して、教職員からの情報発信を引き続き充実していきたい。 ○設問15では、家庭や地域からの声に「迅速に」「誠実に」答えしていくことを前提として、教職員全員で役割分担をしながら取り組んでいる。教職員の手応えとしては、例年と同様に高い自己評価となっているが、個別のことについては十分な対応ができておらず、保護者や地域の方々に迷惑や心配をかけていることもあった。今後もそれらの反省を生かして、しっかりと情報を共有し連携を図っていく中で、信頼関係を引き続き構築していきたい。	教職員アンケート(情報発信) 保護者アンケート(関心) 教職員アンケート(対応)	◎ ◎ ◎	48% 45% 41%	48% 50% 59%	4% 4% 0%	0% 1% 0%
				14・15 学校の情報発信をするともに保護者や地域住民との連携が図られている。	A	○設問14では、保護者の方々の評価は横ばいであった。保護者や地域の方々に来校いただく中で、教育活動を直接見て感じていただいているが、学年・学校通信、ホームページ等を通して、教職員からの情報発信を引き続き充実していきたい。 ○設問15では、家庭や地域からの声に「迅速に」「誠実に」答えしていくことを前提として、教職員全員で役割分担をしながら取り組んでいる。教職員の手応えとしては、例年と同様に高い自己評価となっているが、個別のことについては十分な対応ができておらず、保護者や地域の方々に迷惑や心配をかけていることもあった。今後もそれらの反省を生かして、しっかりと情報を共有し連携を図っていく中で、信頼関係を引き続き構築していきたい。	教職員アンケート(情報発信) 保護者アンケート(関心) 教職員アンケート(対応)	◎ ◎ ◎	48% 45% 41%	48% 50% 59%	4% 4% 0%	0% 1% 0%
		学校関係者評価委員の所見		○早寝・早起き・朝ごはんについて、親のしつけ、生活習慣の影響が大きいと思うが、肯定率が上昇したのは頼もしい。 ○早寝・早起き・朝ごはんの基本的なことを身に付けてくれるといい。登下校の様子は大変よい。 ○心も体もたくましい岡田っ子をめざしてほしい。 ○ルールを守る、一度決めたら長く続ける習慣、家族ぐるみで取り組んでいただきたい。そして、できたらしっかり褒めてあげてほしい。 ○交通ルールの順守では、児童は85%、保護者・教員が思う41%は、当事者はどうしても甘くなりがち、この差を埋めるためのいろいろな環境や教育が大事。 ○2・3列で話しながら登校したり、道の真ん中近くを歩いたりする子がいる。班の子同士で注意ができるといい。下校中は、白線から出ていても平気で、車が前から来ても素早く端に寄らないので、運転している方がはらはらする。車が来たら素早く1列になるように指導を。 ○登下校等雨が降ると車で送っていく。過保護ではないか。 ○低学年は、心境の変化がある。家庭との連携をお願いしたい。 ○親と先生の連携はうまくいっていると思うが、地域住民とのつながりが難しい。子どもに声をかけてもなかなか返事が返ってこない。 ○地域行事に対して、コロナ後を心配していたが、強制することもなく、積極的に参加してもらい有り難い。 ○保護者の皆さんも子どもたちも日々忙しく、子ども会や地域のイベントに参加できず、少しずつ連携が難しくなっている。参加できたときは、満足感、達成感をもってもらえるよう地域の方々もがんばってほしい。 ○愛護部に入らない親が増えているようである。地域の事業(運動会他)に参加しない。習い事が多いと思う。共働き、シングルマザー・ファザー等が増えているために学校の先生の負担が多い。 ○回覧にて学校通信を読ませていただいている。地域の方も、子どもたちの様子は学校通信・広報誌等で見ている方も多く、今後も子どもたちの活躍を楽しみに見守っていかれたらと思う。	学校の対応	○学校行事については、年度当初に予定していた内容を滞りなく実施することができた。保護者をはじめ、外部からの参観者に児童の学びの様子を見ていただき、適宜ご意見をいただきながら、今後も各行事等の学習効果や内容を吟味しつつ、内容を改善したり工夫したりしていきたい。 ○本校の全教職員は、それぞれの立場や役割を自覚し、全力で務めを果たしている。しかしながら、一人一人の児童への指導・支援が不十分であり、保護者の方々としっかりと共通理解の上立った関わりができていないこともある。私たちは、日々の営みを謙虚に振り返り、迅速に対応・改善していくことによって、その務めを果たしていきたいと考えている。保護者や地域の方々からの励みや温かい言葉、児童の学びを温かく見守る姿勢に感謝したい。 ○本校区は教育力が高く、地域の方々や保護者による見守り活動のおかげで、登下校の安全が図られている。教職員も分担して定期的な登下校指導をしている。また、日々の学級指導や通学班会等で指導を継続しているが、いただいたご意見を踏まえ、今後もより具体的に、効果的な指導に努めていきたい。 ○今後も、できる限り子どもたちの日々の様子をホームページや通信等を通じて、お知らせできればと思っている。また、参観授業等により、保護者や児童の健全育成に携わってくださっている地域の方々に、児童の学びの様子をお伝えする機会を充実していきたい。さらに、対面の機会を生かし、親交を図ることで、高い教育力を生かしていきたい。						